

# α-CDで有意な結果

## 飽和脂肪酸の選択的排泄作用

（株）シクロケム（東京都中央区）のパートナー会社である米・ワッカーケミカル社と共同開発しているシエネラルミルス社とアーチエム社は、マウスによる実験でα-CDの飽和脂肪酸選択的排泄作用についての検証を行い、有意な結果を得たことを明らかにした。

実験は雄のラットを四群に分け、各群の餌料中に一五%の脂肪とセルロース五%、キトサン同、α-CD同を配合したほか、餌料中脂肪の一部を五%α-CDで包接化したものを七日間投与。一晩絶食させた後、トリオレイン及びトリパルミチン含有の餌料を五

日投与し、四時間後に糞の採取、二時間後にラットの消化管各部を抽出して測

定した。その結果、トリオレインとトリパルミチンの排泄量、キトサンとα-CD包接体投与群で飽和脂肪酸、不飽和脂肪酸の排泄量が共に増加。また、α-CDとα-CD包接体投与群で糞中からトリパルミチンが

トリオレインに比べて多く検出され、飽和脂肪酸が選択的に排泄されることを確認している。

α-CDは、LDLコレステロールを欠損させた10週齢の雄のノックアウトマウスを二群に分け、高脂肪餌とα-CDを添加した同餌を与えた実験では、α-CDを与えた群にVLDL・LDL・LDL分画、リン脂質、遊離コレステロール、コレステロールエステルの有意な減少を認めたと、HDLの減少は見られず、α-CDが影響しないことを確認した。

シクロケムでは、これまでα-CDがメタボリックシンドロームに有用となる可能性についてヒトの臨床データを取ってきた。今回の動物実験のデータについて、さらなる検証を進めていくという。